
<理事長のごあいさつ>

和歌山経済の発展には発想の転換を！

和歌山地域経済研究機構

理事長 小 田 章

21 世紀も 2 年目を迎えた。景気の回復は依然として芳しくない。政府もあの手この手の施策を打っているが、これといった成果が出ていない。しかし、最近の新聞の論調を見るに徐々にではあるが、明るい兆しも見えはじめてはいる。特に、株価が上昇し、円高が進んでいる。消費も少しずつであるが、回復傾向にある。デフレスパイラルが心配されていたが、価格低下に歯止めがかかりはじめてはいる。

政府の種々の経済政策の効果が出はじめたのか、国民の消費抑制力が限界になってきたのか、今のところ未だ確たる原因は見えていない。いずれにしろ、若干であれ、光明が見え始めたのは喜んでよいであろう。

ところで、今年はサッカーの日韓ワールドカップが開かれたり、プロ野球の阪神タイガースが殊の外調子がよいなど、スポーツ界で明るい話題が多い。このことが、景気回復に大きな役割を果たしているのかもしれない。韓国ではワールド杯で 1 勝すると、約 2 兆円の経済効果があると試算されているそうである。日本ではどうであろうか。予選リーグを突破し、決勝リーグに進むようなら、一気に盛り上がり大きな経済効果を示すのではなかろうか。純粋な経済政策による効果よりスポーツ界の活躍による経済効果が大きいとすれば、スポーツを絡ませた経済政策を策定する方がいいのではなかろうか。日本人は、総額 1400 兆円を超える資産を持っていると言われる。これらの多くがスポーツ関連産業で消費・投資されれば景気回復は一気に達成されるのではなかろうか。政府の経済政策のあり方を見直してみるのもおもしろい。正攻法で攻めるのもいいが、八方塞がりになったときは、時には奇襲をかけてみるのも一策ではないか。スポーツ関連施策が奇襲とはいえないかも知れないが・・・。

和歌山の経済も良いとは言えない。木村知事が提唱する「緑の雇用事業」や県・市が推進している「SOHO」事業

によるベンチャービジネスの創出等も重要な事業である。しかし、発想の転換を図ってみるのもおもしろいかもしれない。スポーツ・レジャー関連産業の振興に注目し、予算の多くを投資するのである。例えば、和歌浦・加太地域を海洋スポーツのメッカにするとか、紀南に球技の国際大会を開催できるような施設をつくるとか、あるいは海洋での船上カジノを事業化するとか、発想の転換を図りながら新たな道を模索することも必要な時期に来ているように思うのである。

ところで、和歌山地域研究機構は、これまで地域の活性化のための研究を行ってきたが、具体的な施策の展開という点では十分であったとは言えない。今年は、これまでの研究成果を踏まえながら、奇襲の施策を提案し、地域の自立的活性化にお少しでもお役に立つことができれば肝銘している。